

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。  
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。  
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。  
 ※いずれの場合も、必ず A3 片面1枚におさまるように作成してください。NITS 大賞に応募する場合、ファイルサイズは5MB以下としてください。

※事務局記入欄

[様式2]

No. D-60

**研修成果の活用レポート** ※「NITS 大賞」にエントリーされる場合は <award@ml.nits.go.jp> 宛てメールにて、ご応募ください。

<b>部門名：</b> 4 校内研修プログラム開発・実践部門	<b>エントリー名：</b> 富山市立山室小学校 長谷川泰久 平成30年度第4回副校長・教頭等研修
<b>活動名：</b> 「特別の教科 道徳」の実践 日常的に学び合う教員集団	
<b>解決すべき課題：</b> 本校は、経験年数が5年までの教員が11人（臨任講師1人を含む）、6年から10年までの教員が2人、10年～20年までの教員が4人、20年以上の教員が9人という構成である。基礎期の教員が多いことから、一人一人が教員としての資質能力を高め、指導力を付けること、また、ベテラン教員を生かす学校経営を行うことが必要となっている。	
<b>目標・方針：</b> 日頃から自由に考えを伝え合い、練り上げようとする職場の雰囲気づくりに努め、OJTを通じて日常的に学び合うことができるようにする。 平成30年度から「特別の教科 道徳」が実施されたことにより、教員自身が「考え議論する道徳の授業」「道徳の評価」等について考える機会が必要となったため、全校で道徳の研修を行うこととする。	
<b>活動内容：</b> 研究主題を「主体的・協同的に学ぶ子どもの育成 ー対話を通じて考え、議論する道徳の実践ー」とし、研究する教科を「特別の教科 道徳」とし、全ての学級が道徳の授業を公開する。 部会を、低学年・中学年・高学年部会、特別支援部会の4つに分け、部会別研修を中心に据える。一部会6～8人の小集団とすることで、若手とベテランが考えや意見を伝え合いやすくし、それぞれに学びのある校内研修とする。 日常的に学び合うことができる環境を整え、若手教員はベテラン教員から学ぶ場を、ベテラン教員は若手教員に教える場を設けることで、教員相互の学びの場が自然と生まれた。また、授業の事前研修で授業観察の視点を明確にし、事後研修では授業の成果と課題が明確になるようにした。若手教員とベテラン教員がそれぞれにOJTを通して学び合うことができた。	
<b>活動の成果：</b> 事前研修では、指導案を検討しながら、授業観察の視点を明らかにした。 事後研修は、付箋紙を使い、授業で生きた教師の支援、子どもの変容、事前の子どもの想定とのずれ等を検討し、大判紙にまとめた。(写真1、2、3) 若手教員は、具体的な子どもの発言やそのとらえ方等について部会での意見を聞くことで、多くの学びを得ることができた。(若手教員の研修の振り返りから) 年間を通して、「教材選定、授業構想、導入の仕方、教材提示、資料の活用方法、発問、板書、考えを共有する場の設定、問い返し、役割演技、気持ちの変化を視覚的に捉える手立て、ネームプレートの活用方法、ワークシート、振り返りカード、生活に生かす工夫、教師の説話、道徳ノートの積み重ねと活用」等について検討し、年間35時間の道徳の授業に行かされる研修となった。 年度末の研修会では、各部会の成果と課題を聴き合い、学びを深めた。(写真4、5) また、教頭が、中央研修で学んできた道徳の授業づくりのポイントや評価等について伝達する場を設けた。(写真6)	
<b>ピールポイント(アイデアや工夫)：</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修におけるOJTの日常化</li> <li>・ 若手教員とベテラン教員が、部会研修を通して学び合う</li> <li>・ 成果を共有する研修</li> </ul>	

<写真、図表添付欄>

写真1



写真2



写真3



写真4



写真5



写真6



若手教員の研修の振り返りから

事後研において、具体的な子どもの発言を元に、先輩教員から教えてもらうことができた。担任がねらっていた価値とは異なる子どもの発言の受け止め方や取り上げ方、発言した子どもの思いを聞くことの大切さ等を学ぶことができた。